

赤れんが通信



北海道庁の金昭賢(キム・ソヒョン)国際交流員が、韓国の友好地域との交流事業や、冬の北海道のようすなどについて書いたレポートをご紹介します。

今更の話ですが、去年さっぽろ雪まつりを十分楽しめなかったことが残念です。その当時は「どうせ来年も機会は来るから」と当たり前のように思っていました。しかし、大通公園を埋め尽くした雪像も、観光客も今回は姿を消して、わずか1年の間に「イベントが開催されない日常」がむしろ当たり前に思われるようになってきました。雰囲気が大きく変わった気がします。来年今頃の生活の様子も今とは違うものになっているのでしょうか。

韓国総領事 北海道庁訪問



第20代駐札幌韓国総領事に就任した裴炳洙総領事は2月9日、北海道庁を訪問し、鈴木知事と挨拶を交わしました。

裴総領事は、「雨降って地固まる」という諺のように、全世界が新型コロナウイルスの影響で国際交流が難しくなったこの時期をうまく乗り越え、今後は両地域の関係がさらに深まることを願っていると話しました。

北海道の鈴木知事も、新型コロナウイルスの流行から1年以上が経ったが、今後、新型コロナウイルス感染症が収束し、両国の交流が再び盛んになる日が来ることを願っていると、これからも絆を大切にしていきたいと述べました。

北海道-慶尚南道 オンライン事務協議

2月18日、北海道庁国際課は慶尚南道企画調整室の担当者とオンライン事務協議を行いました。2006年に友好提携を締結した北海道と慶尚南道は、現在に至るまでミニバレーを通じた民間スポーツ交流を中心に友情を深めてきており、今年で交流15周年を迎えます。

今回の事務協議では、新型コロナウイルスの影響で往来ができなくなった現在の状況の中でも、オンラインなどを活用した交流や自治体の相互広報を続けていく方を提案し、それに関する意見交換を行いました。



雪が多い地域では必須！

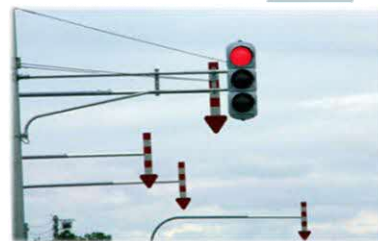
北海道では少し変わった形の信号機が見られます。縦型の信号機は、積雪量の多い地域で雪の荷重で信号機が変形することを防ぐためのものだそうです。もちろん、横型の信号機もよく見かけられます。

市内から離れた道路には矢印も設置されています。「矢羽根」と呼ばれるこれらの標識は道路の境界を表します。冬に雪がたくさん積もって道路の位置が分かりにくくなったとき、ドライバーに道標の役割をするものです。

一方、突然の大雪で立ち往生になる状況に備えて、冬が来る前に予めタイヤを交換し、車内に防寒グッズを用意しておくのがこの地域での日常です。毛布や防寒靴、寝袋、使い捨てカイロなどの防寒グッズのほかに、非常食や飲み水、携帯トイレを備えている人もいます。日本の防災用品は種類も豊かでスーパーや雑貨店など販売先も多く、住民たちは普段から、もしものときに徹底的に備えることができます。

北海道庁でも、ホームページで災害対策を案内しています。内容がわかりやすく日本語及び英語版のマンガを掲載しているので、ぜひご覧ください。

各災害への備え
マンガリーフレット



原子力発電所の防災訓練

北海道には、札幌から約70km離れた「泊村」に泊原子力発電所があります。そのため、重大な事故に備えるために北海道では毎年近隣地域の住民を対象に避難訓練を実施します。

特に、泊発電所の近くのニセコ町や倶知安町には居住する外国人も多く、海外からの観光客もたくさん訪れる地域であることから、今回(R2.10月)の防災訓練は「日本語でのコミュニケーションが困難な外国人」を避難させる状況を想定して行われました。中国、フィリピン、ベトナム、ブラジルなど様々な国の外国人が訓練に参加し、当日は避難所の関係者とは母国語だけで会話をしながら、今後改善すべき事項などをチェックしました。



〔避難所の様子〕



〔コミュニケーションの手段、通訳機〕

模擬訓練では、避難所の関係者との会話は通訳機を利用して行われました。6か国語を試してみましたが、ほとんどの状況でスムーズにコミュニケーションができました。日本語でアナウンスをする際には、敬語の使用を控え、なるべく理解しやすい語彙と簡単な文章で発話をした時、機械がその意味を正確に捉えて正しく通訳する確率が高くなることも分かりました。

避難所で使われる段ボールベッドは特殊素材で製造され、9人の大人が同時に座っていても崩れないほど丈夫でした。ちなみに、値段は1万円ぐらいするそうです。保温効果が良く、組み立てや解体も簡単で、使用後はボックスの形に折りたたんで再利用も可能です。ベッドの周りには段ボールで壁を立ててプライバシーが守られるようになっていました。

冬の北海道の風景

新型コロナウイルスの影響で、第72回のさっぽろ雪まつりはオンライン開催となりました。雪まつりニュースの代わりに、今回はこの時期ならではの北海道の日常的な風景をご紹介します。



〔除雪道具の売り場〕

秋が始まる頃からスーパーでも除雪道具の販売が始まります。



〔すなばこ〕

市内には雪道に撒く砂が入っている砂袋の保管箱があります。



〔雪吊り〕

雪の荷重で枝が折れることを防ぎます。クリスマスツリーみたいにも見えます。



〔赤れんが庁舎の庭の雪〕

庁舎の庭には除雪された雪がたくさん積み上げられています。



〔除雪作業が行われた街〕

車道の雪を道路のわきに寄せると、道路の片方に雪がいっぱい積もります。



〔電熱線が敷かれた歩道〕

電熱線が敷かれた場所は雪が積もらず、煙が上がってくることもあります。

厄祓いの日「節分」

以前、土用丑の日を紹介したことがありましたが、今回は韓国の小正月に似ている「節分」について話してみたいと思います。節分の日にははだいたい立春の前日である2月3日ですが、今年は124年ぶりに2月2日に節分を迎えました。

韓国で小正月の日に栗、落花生、クルミなどを食べて厄祓いをするように、日本では「鬼は外、福は内」と言いながら撒いた豆を自分の歳の数だけ食べます。スーパーの雰囲気も年末年始のイベントが終わると節分モードに切り替わりますが、豆を購入すると鬼のお面をくれるマーケティングが特徴的です。

五穀ご飯とナムルを食べる韓国と違って、日本ではこの日に「恵方巻」と呼ばれる太いのり巻きを食べます。恵方巻きを食べるときはその年の運気のいい方角(今年は南南東)に向かって、食べている間は話をしてはならず、一度で全部食べるというルールがあります。このルールは最近、新型コロナウイルスの予防対策の一つとして話題になった「黙食」とも関連しているようで面白いです。この日の食べ物と言えば恵方巻きですが、コンビニやパン屋さんでは企画商品としてミニサイズのロールケーキも販売しています。これを見て、変わるトレンドに合わせて伝統を継承していると思いました。



北海道国際交流フェア (釜山DAY・済州DAY)



3月8日から二日間、札幌駅前地下歩行空間(チ・カ・ホ)において、北海道の姉妹友好提携地域などを紹介する北海道国際交流フェアを開催しました。イベントでは、韓国以外にもアメリカ、カナダ、中国、ロシアの友好地域が紹介されました。

韓国ブースでは、釜山広域市と済州特別自治道の概要や名所、郷土料理などに関する情報のほか、昨年10月に札幌東陵高校の生徒たちが書いた釜山市民へのコロナ克服応援などのメッセージも展示しました。また、友好地域に対する理解を深めてもらうために、来場客に釜山や済州の観光パンフレット、韓国のお正月料理のレシピブックを配布しました。

北海道-ソウル特別市 友好図書交流

3月15日、北海道とソウル特別市の友好提携10周年記念「友好図書」寄贈式がオンラインで行われました。両地域に関する図書をお互いに寄贈する図書交流事業により、北海道からソウル市へは119冊、ソウル市から北海道へは105冊の友好図書が寄贈されました。



新型コロナウイルスの影響で国境を越えて人と人が会う交流を実施するのは未だ厳しいですが、両地域が心の栄養を共有することでお互いへの理解を深め、より強い関係を構築できることを願っています。



3月24日から
北海道立図書館で
展示中 ☺



✓ 赤れんが通信
バックナンバーは
こちら



✓ 北海道庁
国際課
FACEBOOK



✓ 編集者・発行先 総合政策部 国際局 国際課
北海道札幌市中央区北3条西6丁目
TEL : +81-11-231-4111 FAX : +81-11-232-4303